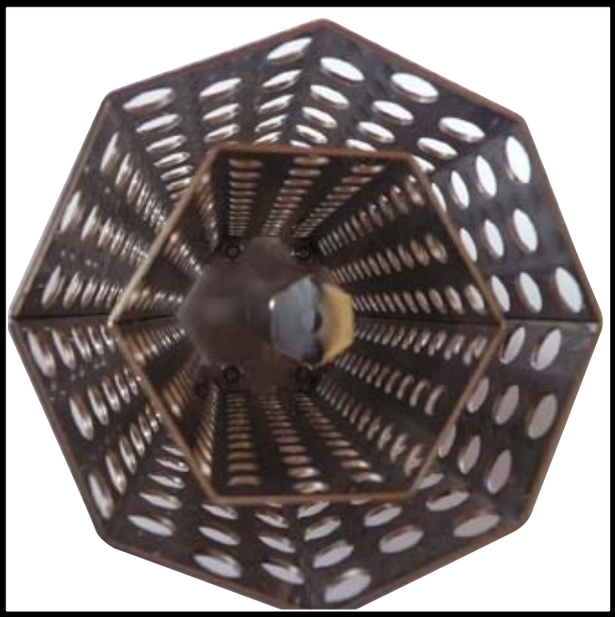
Rosenkranz



KAISER SOUND

共同通信社刊『Ｇａｕｄｉｏ』No.3より抜粋

オーディオを科学するカイザーサウンド

KAISER SOUND

オーディオ、音楽再生という趣味の世界では、ひとつのものさしで物事を測ることはできない。嗜好という個別の要素があるからだ。ところが、カイザーサウンドでは、それ以前の物理的要素を問題として追及、独自の考察で取り組んできた。音が空気の振動である以上、基本的に物理法則に支配され、それに則ったものはいい結果につながるというのである。つまり、オーディオを科学し、物理法則に則った手法で音楽再生に取り組んでいるのだ。ただ、そのものさしは、一端をカイザーゲージに見ることができるが、貝崎静雄と貝崎浄の頭の中にしかない。ポイントは

電気・振動・気流である。

文　長濱貞治

カイザーサウンド代表
貝崎　静雄氏

貝崎　浄氏

「いい音を出すことは努力ですか、それとも才能ですか」と何気なく訊いたときに、貝崎浄は「努力は関係ないですね。才能です。傲慢なことを言うようですがオーディオも才能ですよ」と言い切った。私はそんな彼が大好きである。彼のつくる音は本当に素晴らしいからだ。

オーディオの難しさは機器が販売される瞬間から発生する。どのようにハイエンドなコンポも右から左に渡されるだけ。いわゆる価格勝負のスーパーマーケット方式で販売されて、あとは購入者まかせ。そのコンポで素晴らしい音楽を奏でるところまでは保証されない。いうなら最も肝心な部分については作る人も売る人も誰も責任を取らない。だが、それも仕方ないのだろう。冒頭の言葉からも分かるように、ゾクゾクするように素晴らしい音に仕上げることのできる人間はそうそうはいないからだ。カイザーの二人はそのような素晴らしい音への責任を担う。敢然と担う。

音と音楽の正しいイメージをつかんでいることが第一歩。音楽の感動にも法則性がある。

「今回はカイザーのベースになっている理論などを分かりやすく話してください」とお願いすると、貝崎静雄は「では、まず音と音楽の正しいイメージからいきましょうか」と話しはじめた。

貝崎静雄　音楽に感動することには科学的な法則性があるのです。ところが、こと音に関しては好みを個人個人にゆだねすぎているところがあります。音楽は長さによって成り立っています。これはピタゴラスの定理によって明解です。1の長さとその3分2の長さのものを同時に振動させたときに、いちばん音楽的魅力があって、1をド、2／3ををソと決めたところから始まっています。

倍の長さの中にオクターブという8つの音符が存在していて、どんな長さでも倍にすると倍音でハーモニーするんです。15㎜であっても18㎜であっても、そうです。これは誰にも譲れない科学なんです。大気中の空気という媒質を振動が走ることにおいてです。その中で人々はどのような組み合わせで楽器がハモって、ブレンドされた味わいが、いい音色だなぁと感じるかどうかなんです。

貝崎浄　ここがカイザーのベースです。全ては物理法則にのっとっていて、いいものはしっかりとその法則にのっとっているのです。いいものは良く、正しいのです。人の好みなどは最後に来るのです。そこが音楽と絵画や彫刻との違いです。

貝崎静雄　例えて言えば、合唱団の中に音程のはずれた人が一人でもいたら、いい音楽やいい音にはならないでしょう。それと同じことで、オーディオシステムの音が悪くなってしまうということです。これは好き嫌いではなく科学です。

――　それは、例えばケーブルで言えば、どうなりますか。

貝崎静雄　長さです。ケーブルの長さがまちまちだとハモりません。不協和音のものが入るから音が悪くなるんです。

貝崎浄　ハーモニーの計算で割り切れるとか割り切れないとか、倍数／約数で合っていないということが発生するのです。時間と波長の問題です。たとえば、全員がAフラットの楽器を持っているときに一人がAシャープの楽器で入ると音はおかしくなります。それと同じ現象です。

――　それがケーブルでも起こるんですね。

貝崎浄　だから、我々は長さを揃えろと言うのです。

――　その長さは決まっているんですか？

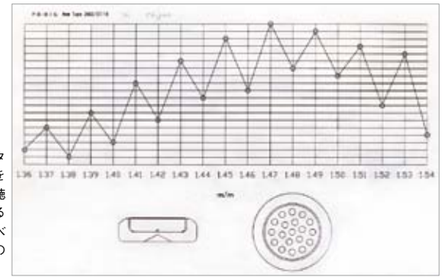
貝崎静雄　さっき言ったでしょう。基本的には最初に用意した長さの倍数で統一していけばいいのです。特別なものを用意する必要はないのです。それが分からないからダメなんです。科学的に考えれば簡単なことです。

貝崎浄　ケーブルには得手不得手の音があります。この音は出るけどこの音は出ないといった感じです。カイザーが提唱している寸法は一番平均律に近く、どのような音も満遍なく出て、リズムチェンジやキーチェンジに自由自在に追従できるという長さです。

――　たとえば基本の長さを1mから95㎝にしたら音の守備範囲が変化するということですね。

貝崎浄　そうです。このことは原理原則なんですね。そんななかで万能に近い寸法をカイザーは提唱しています。だからカイザーのケーブルはどんな音楽にも合うのです。

カイザーメジャーの52.5㎜の発見は、バイワイヤリングのためのターミナルアダプターの開発から。複雑な構造のケーブルを試作して貝崎静雄氏が「これだ」と感じたのが52.5㎜。写真は左から50㎜の試作品、52.5㎜の製品、55㎜の試作品、60㎜の試作品。



インシュレーター開発時のデータシート。0.01mm単位での切削を業者に依頼し、その音の違いを聴感で記録していく。気の遠くなるような試聴の結果から1.47がベストという結果にたどり着いたのだという。

ですから我々は、あと30㎝長くしてといったオーダーは受けません。そんなケーブルはどうせゴミになりますから。必ず長さはしっかり検討して、ときには倍の長さになります。

カイザーメジャーの52.5㎜は貝崎静雄が2数年前に発見した音と音楽の「命の寸法」

――　寸法といえばカイザーゲージがありますね。

貝崎静雄　52.5㎜です。ずっと言っていますが、この長さはどのキーに入っても何とかなるという長さです。

――　調和のいい寸法なんですね？

貝崎静雄　そうです。

――　この長さはどのようにして発見されたのですか。

貝崎静雄　これはバイワイヤリングできるスピーカーが世に出たときに、ジャンパー線というものが必要になったときです。多くのスピーカーには真鍮のプレートが付属していましたけど、音には良くないと思ってケーブルを作ったのです。バイワイヤリングのスピーカーには2組の端子がありますが、一方だけをジャンパー線で接続すると低域と高域で異なる条件になりますから、同じジャンパー線をどちらにも足そうと考えたのです。ケーブルの長さをずっと検討して、10㎝、8㎝、6㎝、5㎝と検討していったのです。

そう言いながら、「これがジャンパー線を作ったときの試作品です」と貝崎氏が試作品のいくつかを見せてくれた。箱には色々な長さのジャンパー線がきれいに並んでいる。一本を手に取ると非常に精密かつしっかりとした作りで迫力を感じる。こめられた熱意がそのまま感じられる。複雑な構造に見えたので聞くと「6種類のケーブルをブレンドした上で半田付けしてあります」とのこと。静雄氏は「作るのに8時間掛かるんですよ。馴染むにも8時間かかりましたから、何日、寝ずに聴いたことか。命がけでしたね」と笑顔で語るが、目は笑っていない。もっとも良く調和の取れる長さ。それは自ら突きとめた科学の長さだった。

貝崎静雄　20年前ですね。60㎜、55㎜、50㎜と来たときに、これもいい、こちらもいいとなりまして、55㎜と50㎜のちょうど中間の長さにしたときにスコーンと私の体に電気が走ったものですから、この長さは一体何なんだと検証し続けたのです。私の体が反応した長さです。本能が出した答えです。

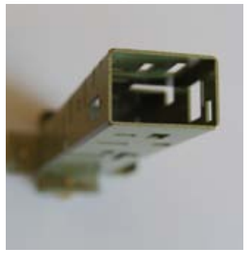
――　前号で話されたカキーンというバッティングの音の話を思い出します。浄さんも、この52.5㎜には同じ気持ちですか。

貝崎浄　発見時の試行錯誤にはい

Sound Revolver
サウンド・リボルバー
¥73,500
▲民芸品の“孔”にヒントを得て開発されたサウンド・リボルバー。8角・6角の金属筒に多数の孔を開け気流の流れを作り出し、音楽表現に寄与する。

▲ストリームリバイバーのアイデアの元となった、カイザー試聴室のあるタワーマンションの吹き抜け構造。試聴室のある部屋の窓とドアの双方を開けると猛烈な空気の流れが生じるのだという。

▶写真のように，各面に取られた切り欠きは大きさ・形がすべて異なっている。上下が開いた空洞で，容積は約1リットルだという。底部のラウンドスパイクはオプションで、右写真のステンレス製スパイクが付属する。



◀取材時には、ミラクルサウンド・シャワーの手前にポンと置かれ、音楽を圧倒的に豊かにした。とはいえ、その置き位置も神業なのかもしれない。

Stream Reviver
ストリーム・リバイバー
¥147,000
▼カイザー流“三種の神器”のひとつ。気圧差を利用して気流に加速度効果を与え、音楽の抑揚表現をさらに豊かにする。部屋の隅に置くだけだが、1本よりも2本の方が効果が大きい。

なかったのですが、使いこなしや応用は二人でやりました。

―― ケーブルはよく素材や構造が言われていますが、その辺はどのように思いますか？

貝崎浄 ズレている中での対症療法というか、そんなことだと思います。最も大切なことをないがしろにしたままですね。こんなことを言うと嫌われますが、そう思います。

新しい原理原則を唱える設計者は少ない。だがカイザーの二人は敢然と既存の常識に挑戦する。

ここから浄氏による実験的な試聴が始まった。前提として、静雄氏による「オーディオの音楽性を決める要素には電気と振動と気流という三つの要素があります」（詳しくは別稿を読んで欲しい）があり、『電気・振動・気流』という三つのテーマに沿ったストーリー性のある試聴となった。

それにしても気流とは一体、何のことだろうと思う。静雄氏は「人の鼓膜で音楽を聴きますから、この鼓膜をあぁいい音楽だなと感じさせる気流で動かしてやればいいという考え方です」と言う。これからは、どのような空気（気流）が耳に届いたらいい音と感じるかということを考えていかなくてはいけないと。「空気のいい音色のパターンを創り出すための電気仕掛けがオーディオだというのが私の結論なんです（貝崎静雄）」

貝崎浄 電気と振動と気流の三つをきちっと整理整頓して、正しい答えにコントロールすると、ステレオはどんなものであっても鳴るということを実現する三種の神器というのを完成させましたから、その効果を聴いて下さい。

1 まず、電気・気流などが対策されていない音を聴く。聴くのは井上陽水をメインに数曲にした。井上揚水は優れた録音ではないのだが、声とバックの演奏の対比などのバランスが装置によって変化することはよく知っている。聴くと、それなりだが少々ギスギスしている。声に滑らかさや艶が不足している。

2 ここに、まずは電気。電源対策で、浄氏が隣の部屋のコンセントの空きにあるものを接続した。するとどうだろう。全体の音がぐんと落ち着き、しっとりするではないか。思わず「すごい」と言う声がして、同席していた編集子が「これはもう売っているのですか」と聞く。確かにこれまでも各社からコンセントに挿入してノイズを除去するという機器はあったが、さして効果は感じられなかった。これは残念ながら未発売。だが間もなく製品として発売されるとのこと。電源の波形を側面から補正していく動作をする。アイソレーショントランスなどのように大がかりでなく、実にスマートな手法で電源環境（音質）を一変させることができる。浄氏は「ワクチンのようなものです」と事もなげだが、音は確か。

3 続いて気流。『ストリームリバイバー』と名付けられた細長い中空の金属柱。側面はまるで模様のように様々な大きさ・形の四角でくり抜かれている。（原理他については貝崎静雄氏自筆の説明文を参照して欲しい）

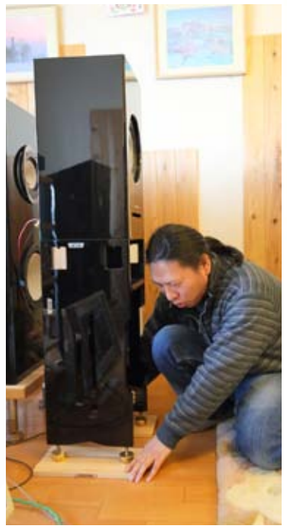
その金属柱をスピーカーの横に一個置いての試聴。すると、どうだろう。それまでの鳴りが変貌するではないか。何というか、音の抑揚やキレや密度が濃くなって、実に心地良い。「うーん、どうして」と誰ともなく声が漏れる。浄氏はタオルで金属柱の働きをオンオフして、その効果を確認させてくれる。違いは明らか。

一般に、ルームチューニングは吸音・反射・拡散によるが、この金属柱『ストリームリバイバー』は全く発想が異なる。空気の流れを加減速している。気流の速度をコントロールするとはどういうことか、凡人には理解しづらいが、試聴室とタワーマンションの位置関係からアイデアを頂いたとは。カイザーは着眼点が違うことをまざまざと感じる。

次に追加して2つ置くと、さらに濃密に効く。コンプレッサーの掛かった、ぺったりしたインストルメントが解き放たれたように吹っ切れ、楽器の形が見えてくる。さらには低音までが空気を感じさせるように鳴るではないか。いうなら、楽器や人の声が生き生きとして、パワーアップされた感じである。音のイメージは確かにホーン型で、とくに低域はホーン型の躍動感がある。

『ストリームリバイバー』は既に発売されている。さらに小型化を図った製品も用意されるそうだ。

◀カイザーサウンドの求めるものを語っていただく。左から、長濱貞治氏、本誌・金城稔編集長、カイザーサウンド代表 貝崎静雄氏、そして貝崎浄氏。
▶スピーカーの位置を微調整する貝崎浄氏。その調整は研ぎ澄まされた感覚で判断し行われる。
▼カイザー流“三種の神器”のひとつ、電気面をコントロールする試作機。電気的なノイズを抑えるのか、音が立体的になる。この内容をコンセントに差し込みやすい形と大きさに仕上げる。



ミラクルサウンド・シャワー
カイザー流“三種の神器”のひとつ。振動面をコントロールする共鳴音叉装置。スピーカーからの音が生楽器からのように変身するという。
※底部のラウンドスパイク、スパイクとスパイク受けインシュレーターはオプションです。

4 三種の神器の最後を司ったのは『ミラクルサウンド・シャワー』と称された振動に対するカイザーの答えである。30㎝四方の置き物のような形で7本の金属棒が立っている。棒の長さと太さは同じだが、各々の立っている位置関係に秘密があるそうだ。いわゆる音叉のような働きをする共鳴器で、浄氏は「作り方では寝た子を起こすような悪さをすることもあるのですが」と話しながら、部屋の片隅に置いた。

音に潤いが出てきた。隣の編集長が「これは欲しいですね」と呟く。どれぐらい共鳴するか聴きに行ったが、まったく音はしない。それが耳にはどうしてこのような感じで音が変化するのかを質問すると「他のものに比べると難解で分かりにくいですね。音的にはデジタル録音で無くした倍音を補正しているというようなことになります」と。

三種の神器がそろって、実にいい音になった。ここで浄氏に、何ゆえこのようなものを作ったのかを訊いたところ、「何を考えて作ったかというと、360度無指向性的バランスにホーン型ならではの響きの良さという、いいとこ取りの音を両立させようと、大風呂敷を広げた末の製品です」とのこと。

試聴したかぎりではこのうえなく成功している。ここからは三種の神器のすごさに話がはずんだ。

「性能のいいアンプやスピーカーを前提にした、いい音へのガイダンスはしたくない」……貝崎静雄

スピーカーの出す音を気流的に振動的にコントロールすることで、鼓膜に届く音を補正する結果になっている。三種の神器はこれまでのオーディオの常識にはなかった理論で成り立っている。部屋の空気、その流れや振幅といった現象に真正面からアクティブに働きかけている。このような発想はなかったし、さらには機器として完成させることなど、誰も思わなかったに違いない。

ところがカイザーの二人はそれを成し遂げたのだ。効果を認めつつ、それでもこのような質問をしてしまう。

―― ニアフィールド・リスニングでも効果はありますか？

貝崎静雄 ニアフィールドの人にはもっと効果は大きいですよ。間接音のエネルギーがしっかり加わるのですから。これまでのオーディオは直接音だけを聴くことに腐心してきましたから、音を吸音したり拡散することで結果的に音を壊してきたのです。

―― そこがカイザーの考え方の違いですね。

貝崎静雄 どちらがいいか、聴けば分かります。

―― 確かにそうです。ずっと豊かかつ繊細で、何よりも自然なので不満が出ないですね。

ここから浄氏はさらにスピーカーをミリ単位で調整していく。本当に素晴らしい音が部屋一杯に響く。氏は「音楽はどんな機械でも楽しめ、感動できるものです。ただ、いい音への原理原則をベースにしておかないと、高価なケーブルだからいい音といった誤解をしてしまいます」と言う。

カイザーの二人は全国のオーディオファンの家に赴いてクリニックを続けているが、三種の神器もそのような多くの人のいい音、感動できる音への渇望を知ったことから生まれたのではないだろうか。電気と振動と気流を考えなければいい音はつくれないという科学を実証したかったこともあるだろう。そのように真摯にオーディオに立ち向かう二人なのだ。

私は貝崎静雄のこの言葉が好きだ。それは「なんとかいい音を鳴らそうという執念ですね。性能のいいアンプや優秀なスピーカーに換えたら、いい音になりますよといったガイダンスはしたくないのですよ」。貝崎浄の「カイザーは科学しているということを伝えたいですね。カイザーには新製品のための新製品はないのです」も好きな言葉である。またカイザーは、音楽的魅力に満ちたオーディオルーム設計も人気がある。

KAISER SOUND

オーディオを科学する「カイザーサウンドの生き方」

貝崎静雄

／5　シ＝8／15　ド＝1／2

この8音をオクターブと称し、ド・ミ・ラ・ドは完全一体を成しているのが分かります。これを含めて何周期か毎に足並みが揃うのが、響きやゆらぎを生む音楽的な構成因子であります。

この1の長さの幅の中に於いて、2千年以上も修練されながら今もなお、配分比率の良き塩梅を紡ぎ出さんとするのが平均律という調律法です。オーディオ製品はエレクトロニクス回路だけではなく、こうした音楽の真理に目を向けるべなのです。

●オーディオクリニックはオーディオの科学検証行為

カイザーサウンドが「和音ワイヤリング」や「和音セッティング」という言葉を盛んに使うのはその為なのです。音楽愛好家に魅力ある音を提供すると共に、科学検証を行う為に日本全国を回りながら、オーディオクリニックというデータ採取（確かめ算）を行なっているのです。

その逆算が、ローゼンクランツ製品の設計に、フィードバックされているのです。

「音から音楽に生まれ変わった！」という喜びの声や論評が多いのはそのためです。納得頂けたのではないでしょうか。

物に振動を加え、その長さの組合せを駆使して音色的魅力を作り上げたものを音楽と呼びます。ですから、この法則性を無視して、あるいは知らずして、オーディオの開発や音の組合せに言及することは自体が不適格であり、不合格なのです。そうした強い理念の基に、音を測る物差し「カイザーゲージ」が誕生したのです。

●オーディオのあるべき本来の姿

音楽を聴くための道具として誕生したのがオーディオ機器ですが、魅力ある音楽が手に入るまでには、直接・間接的に諸々の影響を受けます。今までに数え切れないほどの機器及び周辺グッズが誕生しました。その膨大な組合せは天文学的数字になります。その中で相性とか好みを先に言い始めると、音はその時々によって変わるので、議論は噛み合わず答えはどれも正解としなければ収拾がつきません。特に作り手と売り手は、この「理」を熟知した後に、組合せや相性について云々するべきであります。

そこで、「どのメーカーのどんな機器であっても、どんなコンディションが構築された時に、人は音楽として認知し、魅力を覚えるのだろう！」という点に着目して、カイザーサウンドは認知学をテーマに「オーディオの理」の研究をすると共に科学し続けます。

●現在たどり着いた結論は

最後に、オーディオの金庫の鍵を開けるのは気流です。

気流こそがオーディオのトリを受け持つのです。これがオーディオの真理であると考えます。

音楽成分に満ちた気流をいかに鼓膜に届けるかが、オーディオシステムの根幹命題です。リアルな音楽気流の波形は、緩急・強弱・抑揚を正確に伝えるものです。これらを達成するには、役割が大きく三つに分けられます。

❶電気グループ：プレーヤー、アンプ、スピーカー、ケーブル等

音楽信号に直接関わるアンプやスピーカー、ケーブル等の電気部門の機器達をスターターとしての役割を担う1つのグループとすることが出来ます。これらは、アクティブ的要素の強い物です。

❷振動グループ：インシュレーター、オーディオラック、部屋及び家財道具等

スピーカーが発生させた音楽振動を、床や壁の構造物と空気の媒質との受け渡し役としての同時通訳的働きを求められるのが、インシュレーター、オーディオラック等の第二走者であります。このグループは、アクティブ／パッシブの両面を持つのが特徴です。

❸気流グループ：空気に直接影響を及ぼす物と空気という媒質

パッシブ的要素が強いです。従来からの考え方による製品群は、ルームチューニング製品と呼ばれ、吸音・反射・拡散を基本の考えとしております。

●気流についての新しい考え方

オーディオの最後の結果がモロに出るのは空気であります。即ち、気流のパターン次第によって、良くも悪くもオーディオの評価・音楽の魅力が決まるのです。この空気を動かすまでの第一、第二グループは、空気を動かす為の手段と言ってしまっても間違いではありません。

器によって形が変わる水と同じように、空気も全ては相手によってでしか形を作れないものです。従って空気には罪はなく、その周りを取り囲む物や環境に良し悪しが存在するだけです。

極論すると、私達オーディオマニアは空気に高いお金を払っていると悟った方が、曇った目からウロコが剥がれ落ちるのではないでしょうか。どの部分が活躍しようと、とにかく音楽的に総合得点が高くなりさえすれば良いのです。

主役／脇役を問わず、それら構成員が成すべき一致した目標は、鼓膜に届ける空気の音楽的魅力に尽きます。これがオーディオの究極のテーマであります。それらの理の達成に向けて機器達は働くべきであります。

●電気を手段として！音楽としての振動に変え！芸術的な気流を誕生させる！

これが、オーディオの再生芸術と呼ばれるべき姿だと思います。

これからのオーディオ界を牽引するには、気流＞振動＞電気の意識配分で取り組むべきです。

●ピタゴラスの定理

1の長さとその2／3の長さの物を同時に振動させた時に、一番音楽的魅力があったというのが、ピタゴラスの自然科学としてのスタートとなっています。その後、1を「ド」とし、2／3を「ソ」と決めていく中から音楽という法則性と科学が譜面として確立していったのです。

●オクターブ：和音の長さの比

ド＝1　レ＝8／9　ミ＝4／5　ファ＝3／4　ソ＝2／3　ラ＝3

元々の電源の取り方。全く整理がされておらず，これでは高価なケーブルもその真価を発揮できない。

ナイアガラ・ハイブリッドを導入し電源環境が整えられたカイザー流セッティング後の電源の取り方。

加速度組立を行う貝崎静雄氏。ユニットの取り付け、入力端子やジャンパープレートの組み替えなどを行うのだが、なぜそれがいいのかは貝崎氏にしか分からない。

カイザーサウンド流 サウンドチューニング 事例 1

強度不足の床への対応から電源対策とセッティングで音楽的な再現に

ATC　SCM50PSLをアンプジラ2000で鳴らすTCさんのクリニック例。ケーブル類はほとんどがNBS製だという。

スピーカー用インシュレーターの貸し出し試聴からクリニックへ発展。床暖房のため強度の不足した床であることから、サウンドステーションSタイプを準備したところ効果が大きく、インシュレーターBIG3と共にそのまま購入。さらに後日、BIG3の追加と共にナイアガラ・ハイブリッドの試聴と正式なセッティングの依頼が。電源環境の改善とスピーカーの加速度組立（一部）などカイザー流のセッティングを行っている。

これに対してTCさんは、「今、キーシンのピアノが恐ろしく響きわたっています。何を聞いても別次元です。この感動はどの音楽好きも魅了するでしょうが、（中略）昨日から我が家は、すばらしいコンサートホールになったといっていいのでしょうか？」と感想を語っている。

Rosenkranz

電気・振動・気流をコントロールするアクセサリー

カイザーサウンドのブランドであるローゼンクランツには数多くのアクセサリーがラインアップされている。振動をコントロールするためのインシュレーターやオーディオラック、電気信号を伝える部分のケーブル類、電源機器など幅広いが、すべてが科学的な側面から繰り返し行われた試作・試聴の結果で作られている。

ナイアガラ・HB
¥388,500
◀12年間に渡るノウハウの積み重ねから誕生した電源タップ。素材、構造、形状、色、物性の方向性などの全てが見事にバランスしているという。表記価格はベーシックモデル、バージョンアップモデルは￥582,750となり、ベーシックモデルは差額分でバージョンアップ可能だ。

カイザーゲージ
¥5,250
音を測るものさし。カイザーサウンドが解明した音楽的に正しい長さ“カイザーウェーブ”を測ることができるもので、オーディオ機器だけでなく家具などの配置にも使える。5.5mのコンベックス方式。

PIN-RGB/0.5　¥19,950
同社でもっとも安価なインターコネクトケーブル。被覆は赤・緑・黒。長さは0.9kaiser。

Blood Stream1　¥40,950(1.8kaiser)
エネルギッシュな、透明感がありストレートなサウンドを追求した電源ケーブル。長さはカイザーならではの1.8kaiser。

B＆W 802に取り付けられた専用インシュレーターRK-BW。元々取り付けられているボールキャスターを取り外して取り付ける。

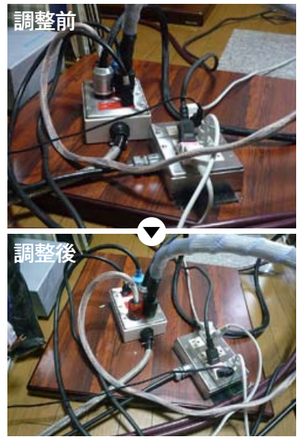
カイザーサウンド流 サウンドチューニング 事例 2

瞬間振動処理能力が抜群に優れた建物。調整でより高次元に

B＆W802をお使いのRAさんのクリニック例。

B＆W用のインシュレーターRK-BWをご自身で取り付けられ、その効果に大満足。クリニックで伺うと、瞬間振動処理能力が抜群に高い建物に驚いたそうだ。実際の調整は、スピーカーをはじめとする機器のセッティング位置の調整、電源タップからの給電場所の変更、スピーカーの加速度組立、そして気流の問題を解決するストリームリバイバーの設置という流れ。2時間半のクリニックだ。

これに対してRAさんは、「個々のどの調整でどのように効果があってのことなのか、多くの調整を短時間で一気にでしたので、自分の能力ではうまく説明が出来ません。（中略）今回のクリニックという短い時間の内に、自分の能力だけではおそらく一生かけてもたどり着けないところまで、一気に登ってしまった、ということです。驚きと、感動と、満足と、幸せを感じています。」と語っている。



調整前の電源タップからの給電（上）と調整後の給電。使っているタップは全く同じで、指している場所が違うだけ。この“適材適所”の短時間の判断も貝崎氏にしかできないのかもしれない。

■取材を通して感じたこと■

前号と今号で、数回カイザーサウンド東京試聴室を訪れた。

前号取材では、お話を伺いながら、これまでの常識では理解できない理論に戸惑いを覚え、実際の音の変化には驚いてばかり。確かに言われる通りだし、結果としての音はいい方向に変化をしている。簡単に言うと、音楽的に豊かになって、音量が小さくとも歌の心や演奏の力が伝わってくるのだ。

今回、カイザーサウンドの取り組みを改めて伺い、その背景にある驚異的と言えるほどの科学的な取り組みに改めて驚かされた。研ぎ澄まされた感性という計測器で微妙な音楽表現の違いを聞き分け、判断した結果が同社製品になっているのであり、一方でクリニックに活かされているのである。（古賀）

PB-Rosenkranz　¥23,100（お奨め1組）
▲社名を冠した同社を代表する，レギュラーサイズのオールマイティ・インシュレーター。同社が「歯と歯茎の関係」という構造を持ち、高さ22.8mm，直径35mm。力強さと美しさの両方を兼ね備えているという。

PB-BABY(ECO)Ⅱ
¥2,310（1個）
▲同社インシュレーターのベーシックモデル。直径は23mmとベースモデルと同じだが、外周部と中心部の高さをさらに最適化している。セッティングの容易さが改良の目的だという。

ローズバイブレーション
¥7,350（2枚1組）
◀バラのシンボルマークをモチーフにしたステンレス製の制振グッズ。オーディオ機器の振動対策、音響エネルギーのコントロールの他、電磁波対策にも効果があるという。聴感上ではS/Nやダイナミックレンジの向上が感じられる。直径33.4mm，厚さ0.5mm。

KAISER SOUND
問合せ先
カイザーサウンド有限会社
〒135-0045
東京都江東区古石場2-14-1-606
☎03-3643-1236
FAX 03-3643-1237

URL http://www.rosenkranz-jp.com
E-mail info@rosenkranz-jp.com

写真＆構成：古賀義朗 ／ Presented by Kaiser Sound